

—高エネルギー加速器研究奨励賞の3件を受賞した谷・柴・西川の3人へ— 24年度奨励賞受賞式を開催

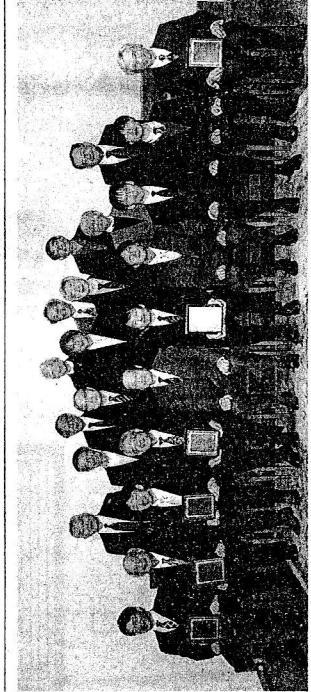
(公財)高エネルギー加速器研究奨励賞は「2024年度奨励賞受賞者」を決定し、3月5日、アルカディア市谷松学会館(東京都千代田区)で授与式を行った。今年度は西川賞、小柴賞、柴谷賞の3賞6件を表彰した。授与式では同財団の幅広い代表理事(企画特別教授)があいさつし、同賞選考委員会の小林幸則委員長(企画特別教授)が選考理由を報告した後、幅代表理事が各賞に盾と賞金を授与した。さらに、各受賞者が研究概要を発表し、最後に同財団の山口誠哉業務執行理事(企画特別教授)があいさつして終了した。

各賞の受賞者、研究課題・業績・選考理由(要旨)は次の通り。

西川賞
 ◇金俊氏(京都大学エネルギー理工研究所准教授)
 「先端利用研究のため

小柴賞
 ◇関谷洋之氏(東京大学宇宙線研究所准教授)
 「超新星ニコトリノ観測における遅延取り出し技術の開拓」

柴谷賞
 ◇古矢勝彦氏(元ニチハ社)
 「大型加速器の建設と運転による電源の開発および製造」



受賞者と授与式参加者の記念撮影

の中赤外自由電子レーザー装置の性能向上と利用研究の展開に従事し、独創性の高い技術開発を積み上げる効率の記録革新、3・7サマーフェスティバルの超短パルス生成と現在に至るまで一貫していつた頭著なEEL性能を実現した。さらに、加速度器技術を駆使して低電圧光の供給まで立ち上げながら一人で行える運転システムを完成させた。

◇富澤正人氏
 ◇高エネルギー加速器研究機構特別教授(企画特別教授)
 「超新星ニコトリノ観測における遅延取り出し技術の開拓」

◇関谷洋之氏(東京大学宇宙線研究所准教授)
 「超新星ニコトリノ観測における遅延取り出し技術の開拓」

◇古矢勝彦氏(元ニチハ社)
 「大型加速器の建設と運転による電源の開発および製造」